

東北教区 〈3.11 わたしたちの祈り〉 2024

「あなたはわたしの嘆きを数えられたはずです。あなたの記録にそれが載っているではありませんか。

あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください。」

(詩編56:9)

「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。」

(コリントの信徒への手紙二1:4)

天地の造り主なる神さま、私たちが地上からささげる 切なる祈りに耳を傾けてください。

あの東日本大震災、そして原子力発電所の爆発事故という未曾有の出来事を思い起こしています。あれから13年が経ちました。出来事への記憶と関心が薄れ、あるいは美化された13年でした。いまだに被災した方々の心の傷は深く残り、今でもふるさとに戻れない方々が多くおられます。また、能登半島で発生した大地震により、多くの命と生活の場が奪われた多大な苦痛を思うと、決して他人事には思えません。私たちはそのことも覚えて、嘆き悲しみも、愚かさや罪深さも、すべてあなたの み前に包み隠さず祈りをささげます。

津波の犠牲となった方々、そのご家族友人のために祈ります。

突然の巨大な揺れに恐怖し、その直後に幾度となく押し寄せた黒い波の犠牲となった方々の魂を、すべての命の源であるあなたの み手に委ねます。愛する家族や大切な友人を亡くされた方々が大勢おられます。癒しがたい悲しみに打ちひしがれる人々に、憐れみと慰めの み手を差し伸べてください。

ふるさとを失った人々を覚えて祈ります。

津波の威力によって大切なふるさが流され、住み慣れた家や生活を奪われた人々がいます。目には見えない放射能の影響で地域から追いやられた人々がいます。どちらも、かけがえのない地域共同体を破壊され、心も傷ついた方々です。これらの人々が隣人と共に、安心して住まう暮らしを少しずつでも取り戻すことができるよう、み手を差し伸べてください。お一人お一人の涙、声にならない声に耳を傾け続ける心を、私たちにお与えください。

被災教会のため、またその働きのために祈ります。

多くの会堂が被災し、関係者の尊い命を奪われた群れがあります。その中で、地域に立ち続ける教会、信仰者がいます。避難指示が解除された地域では、帰還を選んだ住民のために礼拝も再開されました。これら一つひとつの営みが、あなたの み旨にかなうものとなり、関わる方々の命の支えとなりますように。

神さまの調和の世界を破壊した過ちを悔い改め、祈ります。

私たちは身勝手な都合のため、傲慢にも自然界を搾取し、あなたのお造りになった美しい大地を汚(けが)してしまいました。このような私たちの罪を赦し、あなたの目に良しとする道へ立ち帰らせてください。私たちの社会はこの大惨事を忘れ、再び誤った道へ戻ろうとしています。重要な方針を決める立場の者が現実を直視し、正しい選択を決断できるようお導きください。私たちが過去を真摯(しんし)に悔い改め、持続可能な社会へ向かうことができますように。

今も世界で傷つく人々に心を寄せて祈ります。

私たちはこの国のみならず、世界のために祈りを合わせます。あれから13年、世界各地の人々が自然災害、紛争と侵略、独裁政治のもとで苦難を強いられています。特に、いまだ戦火のもとにある、ウクライナの地、そしてガザの地にある、すべての人のために祈ります。神さま、震災の痛みを経験した私たちはその悲惨な出来事を知るたびに、心が張り裂けそうになるのです。私たちの信仰が十字架の主イエスの示す、確かな希望と慰めに根差すものとなるように、そして困難のうちにある人々と共に生きる道を選び取れるように、どうか助けてください。

喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に涙を流してくださる主イエス・キリストの み名によって祈ります。アーメン。